



# **OpenChain JWG**

## **第20回会合**

**Panasonic Corporation**

**加藤 慎介**

**[kato.shinsuke@jp.panasonic.com](mailto:kato.shinsuke@jp.panasonic.com)**

- **OSSコンプライアンスにおいて、情報収集や情報共有の場で、他社の良い事例を聞ける機会も増えてきたと思います**
- **一方で、広く議論する場はあっても、その場限りで終わってしまい、各自が自分のメモを頼りに社内へフィードバックする、などという状況が多いと感じています**
- **フリーディスカッションの場で情報を集めることができて、テーマが発散しがちなケースもあり、あえてケースを絞って各社の状況を話す、というようなことはあまりないと感じています**

**そこで、テーマを決めて、各社の状況をそれぞれ発表し、下記の効果を目論見ます**

- **テーマに沿って、ケーススタディを集めることで、参考にしやすい／新しい気付きがある、などの効果を期待**
- **似ている状況の他社のケースから、良い点を社内にフィードバック**
- **発表形態：1社持ち時間は2～3分として、状況(実状)をプレゼン**
  - **あえてある程度フォーマット化してシンプルに**
  - **その中でポイントと思う点、などを含める**
  - **匿名希望(A社, B社)もOKとして、出来れば議事(Wiki)に残す**

## • OSSに関するポリシー編

- 各社、どのようなポリシーを策定しているんだろう？
- 下記のポイントを踏まえて情報交換しましょう！
  - ポリシーの制定・策定期間, や, その経緯 (いつ? なぜ?)
  - ポリシーの形態 (社内規定? 参考規定? デファクト?)
  - ポリシーの粒度 (方針? ガイドライン? 手順?)
  - ポリシーの範囲
    - ライセンスコンプライアンス / OSS利用方針 / コントリビューション / OSSコミュニティ・エコシステム参画・ドライブ
  - ポリシーの対象 (全社? 部門? 不明確?)
  - ポリシー制定前の状況
    - 技術者が都度検討? 有識者に相談? 社内窓口で相談?
- 上記をいろいろ聞くことで...
  - OSSポリシーを策定する立場のひとの参考になるかも
  - 単純に、いろんなケースを聞きたい!

会社名		Wiki掲載	<b>OK</b> / NG
記載者		記載日	2021/mm/dd
制定時期	<div> <div></div> <div>2021</div> </div>		

内容	概要/内容など
経緯	<b>なぜ策定・制定したのか？</b> OSS利用プロジェクト増加, 社内規定改定時, 重要プロジェクト発足時, など
形態/粒度	<b>社内でどんな感じのものか？</b> 社内規定, 参考規定, デファクト 有識者意見, ガイドライン, 方針, 手順, など
範囲	<b>どこにフォーカス, どこをカバー, しているか？</b> OSS利用, OSSコンプライアンス, コントリビュー ション, OSSコミュニティ参加, OSSコミュニティ 運営, など
対象組織	全社, 部門, ボランティア運用, など
制定前 の状況	

フリーフォーマットでも良いです  
が、左記を鑑みて記載ください

## 記載例

# OSSに関する

Wiki掲載可否を記載ください  
どちらかの文字を消すのでもOK

記載日を儲けておくことで、状況が変わったあとでも「あくまで当時の状況」とできることを意図しています

会社名		Wiki掲載	OK / <del>NG</del>
記載者		記載日	2021/mm/dd
制定時期	<div> <div>2005</div> <div>2015</div> <div>2021</div> </div>		

明示が厳しい場合は、「某社」や「匿名希望」で構いません

内容	開発におけるOSS使用・利用の注意点など
経緯	OSS利用プロジェクトの増加
形態/粒度	ガイドライン
範囲	OSS利用・OSSコンプライアンス
対象組織	全社（日本語のみ）
制定前の状況	有識者に都度相談

内容	OSSコントリビューションの際のプロセスなど
経緯	OSSへのコントリビューションのニーズ（社内）の高まり
形態/粒度	ガイドライン
範囲	OSSコントリビューション
対象組織	全社（日本語のみ）
制定前の状況	有識者に都度相談

いくつかのタイミングで、いくつかのものがあれば、1枚で複数記載や、ページが分かれてもOKです

事例ページは CC-BY-ND-4.0 にしています。

CC-BY-ND-4.0

- 以下, LT (各社のスライド)

会社名	オリンパス株式会社	Wiki掲載	<b>OK</b> / NG
記載者	小泉 悟	記載日	2020/2/10
制定時期	<div> <div>2019</div> <div>2020</div> </div>		

内容	「オリンパスグループ(オリンパス株式会社及びその子会社、以下「オリンパス」という)は、オープンソースソフトウェアと誠実に向き合い、全部署においてそのライセンスを遵守する。」(原文そのまま)
経緯	OpenChainのSpecを横目で見ながら、直近の社内規定改定のついでに盛り込んだ
形態/粒度	社内規定の「目的」の冒頭の一文。
範囲	OSS利用、OSSコンプライアンス(今のところここまで。将来的にコントリビュション、OSSコミュニティ参加まで拡大しても耐えられる文言に。)
対象組織	海外子会社も含むグループ全社
制定前の状況	もともと「プロセス」は社内規定として存在しており、「ポリシー」に書いてあるような内容も暗黙の前提とはなっていた。



INTEGRITY  
誠実

私たちは、誠意をもって  
行動し、信頼される存在で  
あり続けます

会社名	パナソニック株式会社	Wiki掲載	<b>OK</b> / NG
記載者	加藤 慎介	記載日	2020/02/17
制定時期	<div> <div>2001</div> <div>2011</div> <div>2013</div> <div>2020</div> </div>		

内容	開発におけるOSS使用・利用の注意点など（特にLinuxにフォーカス）
経緯	Linux活用プロジェクトの存在
形態/粒度	ガイドライン
範囲	OSS利用・OSSコンプライアンス
対象組織	グループ全社（日本語のみ）
制定前の状況	OSS未使用. ガイドライン発行前は有識者で検討して都度対応

内容	OSSコントリビューションの際の考え方
経緯	OSSへのコントリビューションのニーズ（社内）の高まり
形態/粒度	ガイドライン
範囲	OSSコントリビューション
対象組織	グループ全社（日本・英語）
制定前の状況	有識者に都度相談、都度対応

- ファーストケース発生までに先行してガイドライン等の発行はなく、ファーストケースに対して法務知財技術で運用を検討。その後、複数ケースになるなどケース・範囲が広がるタイミングで、ガイドライン化
- ガイドラインのメンテナンスに関して運用整備(中)



会社名	ソニーグループ株式会社	Wiki掲載	<b>OK</b> / NG
記載者	小保田 規生	記載日	2021/7/06
制定時期	<div> <div>2002</div> <div>2011</div> <div>2015</div> <div>2020, 2021</div> </div>		

内容	OSSガイドライン
経緯	直近に迫ったOSS活用のニーズを満たす
形態/粒度	GPL/LGPLに特に焦点を当てたガイドライン
範囲	OSS利用, OSSコンプライアンス, コントリビューション, OSSコミュニティ参加
対象組織	全社
制定前の状況	OSS利用は本格的には視野に入っていなかった

内容	OSSガイドライン（初版）
経緯	OSS適切利用に関する具体的な指示の必要性
形態/粒度	GPL/LGPLに特に焦点を当てつつも他のライセンスにも配慮したガイドライン（公式文書）
範囲	OSS利用, OSSコンプライアンス
対象組織	全社
制定前の状況	OSSガイドラインの浸透が見られた 対応ボランティアの萌芽

内容	OSSガイドライン（改訂版）
経緯	社外の開発パートナー対応と、拡大するOSSの戦略的展開に対応
形態/粒度	初版に加え、OSS化ガイドライン技術発表ガイドラインなど追加
範囲	初版に加え、コントリビューション, OSSコミュニティ参加並びに創成
対象組織	全社
制定前の状況	OSSガイドラインが広範に参照されるように、またOSSボランティアの充実

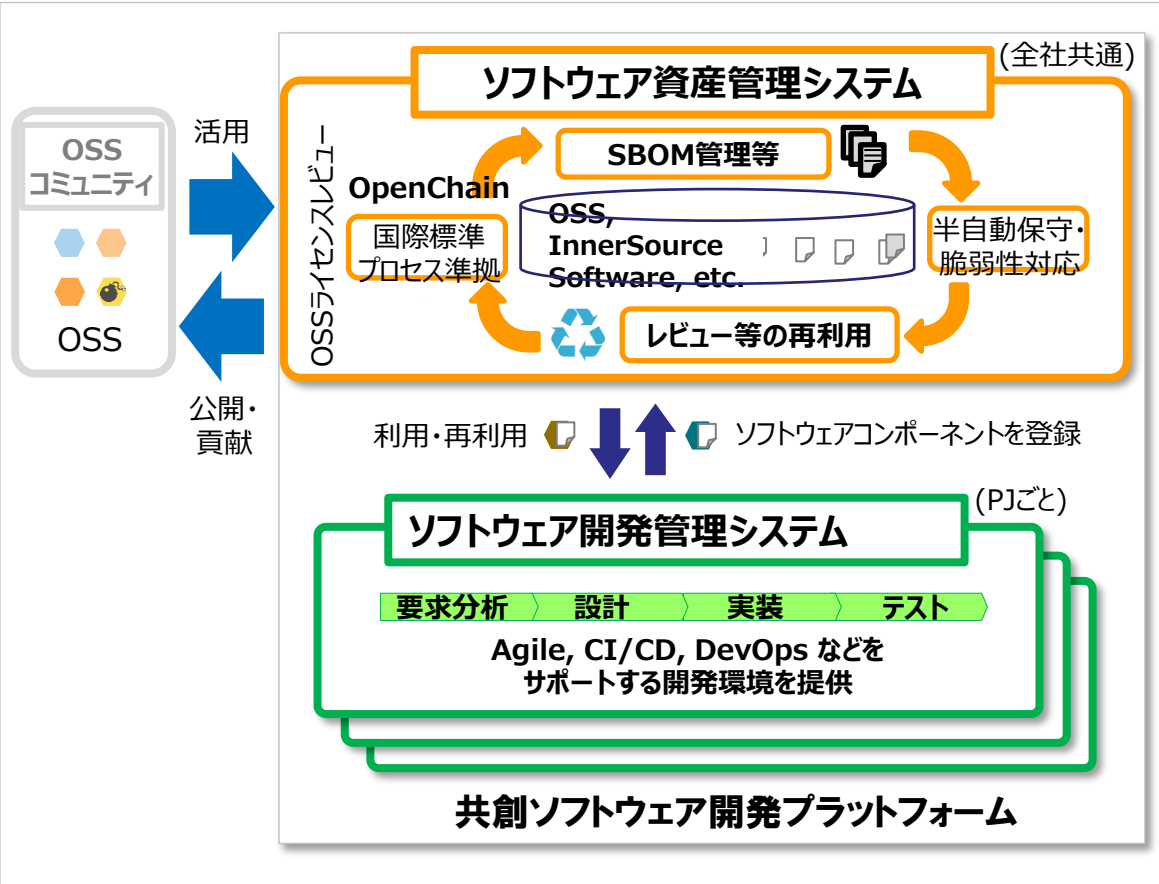
内容	OSSガイドライン（改訂版）
経緯	OSSの適切な利用と戦略的展開における社内プロセスの改善
形態/粒度	GPL/LGPLなどへの対応に関するより詳細な社内プロセスの定義と、コントリビューションワークフローなどを追加
範囲	OSS利用時のプロセス改善、コントリビューション, OSSコミュニティ参加時のプロセス改善
対象組織	全社
制定前の状況	OSSガイドラインが遵守すべき社内ルールの一つとなり、関連会社の一部では、独立したOSS委員会が立ち上がる

会社名	NEC/NECソリューションイノベータ(NES)	Wiki掲載	<b>OK</b> / NG
記載者	米嶋 大志(NEC)、島 直道(NES)	記載日	2021/07/21
制定時期	<div> 2013 → 半年後 2019 2020 </div>		

内容/範囲	SBOMの作成、ライセンス遵守	内容/範囲	SBOMの作成、ライセンス遵守、OSSのリスク評価、コントリビューション、自社プログラムのOSS化など	左記文書と統合/一本化	
経緯	社内でOSSの利用者が増え、ガイドラインによる統制が必要となり法務・品質保証が主管、OSS推進が協力で制定	経緯	OSS利活用の形態や数/種類の増加、既存ルールのカバー範囲拡大の必要性が出てきたため、OSS推進主導で制定		
形態/粒度	ガイドライン	形態/粒度	ガイドライン		
対象組織	NECグループ全体	対象組織	NECグループ全体		
制定前の状況	OSSの活用統制に関わる文書なし	制定前の状況	左記ガイドライン(左記ガイドラインのスコープ外についての統制文書はなし)		
NESでは本ガイドラインを品質マネジメントシステム(QMS)関連文書として制定		NESでは本ガイドラインを左記文書から差し替え、QMS関連文書として制定			

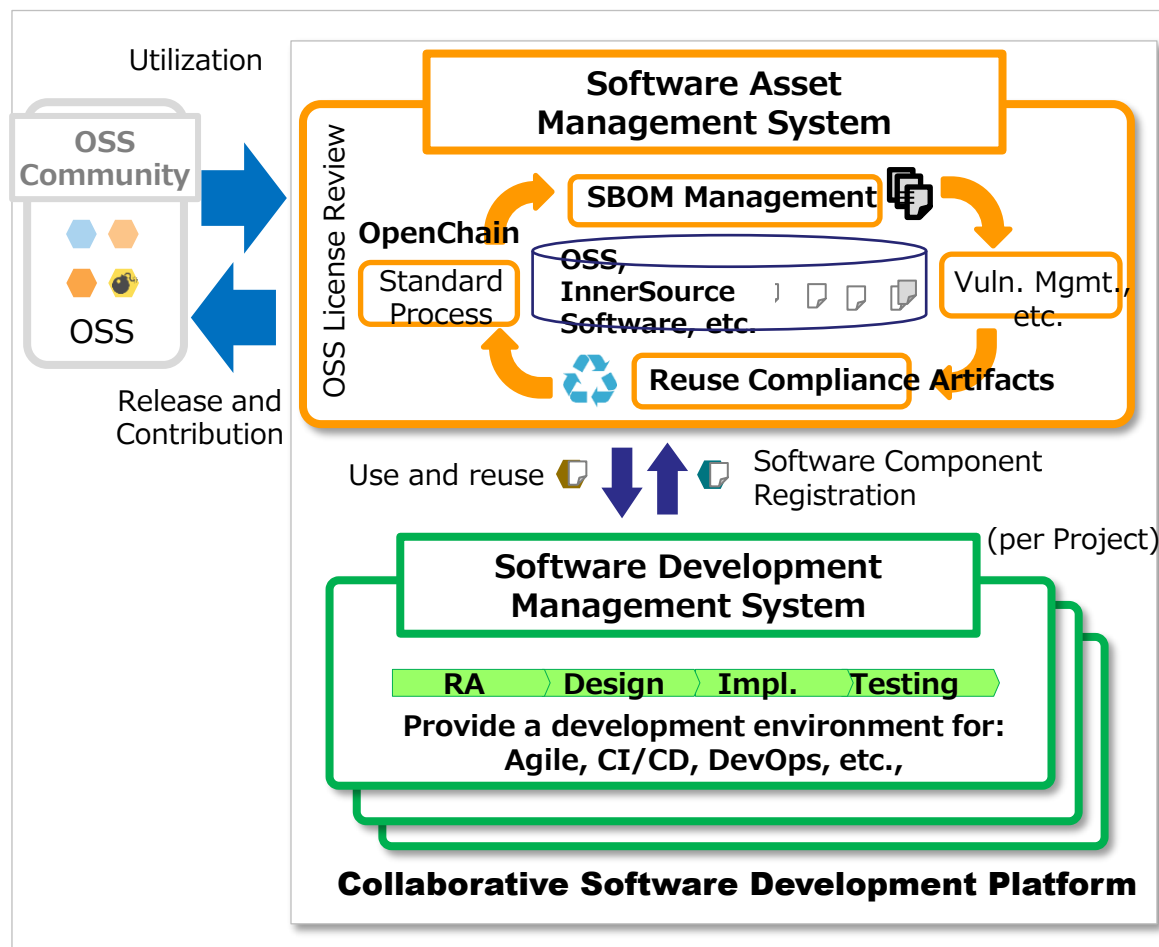
会社名	株式会社 東芝 ソフトウェア技術センター	Wiki掲載	<b>OK</b> / NG
記載者	忍頂寺 毅	記載日	<b>2021/07/29</b>

利用	<p>積極的なOSS活用。コンプライアンスは重要。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>第三者によるソフトウェアについて、その利用に係る規定等を設けている。OSSはその一部</li><li>OSSに関する基礎的な管理項目はSPDX Lite に類似</li></ol>
貢献	<p>Upstream First 推奨</p> <ol style="list-style-type: none"><li>コミュニティへの参加<ul style="list-style-type: none"><li>対外活動の扱いに準じる</li></ul></li><li>公開や投稿<ul style="list-style-type: none"><li>社外開示（発表）の扱いに準じる</li></ul></li></ol>
関連	<ol style="list-style-type: none"><li>SIRTと連携しての脆弱性管理</li><li>当センターでライセンスレビュー等を支援</li><li>「共創ソフトウェア開発プラットフォーム」で OpenChain準拠のプロセス導入を支援。ライセンスレビュー記録、SBOM、ソフトウェア資産、ノウハウ等を共有</li><li>InnerSource の導入も進めている</li></ol>



<b>Company</b>	<b>Toshiba Corporation</b>	<b>Wiki</b>	<b>OK NG</b>
<b>Reporter</b>	<b>Takashi Ninjouji</b>	<b>Date</b>	<b>2021/07/29</b>

<b>Utilize</b>	<p>Compliance is also important for the effective use of OSS.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Follow the rules for the use of third-party's software; OSS is a part of that.</li> <li>2. Basic management items almost equals SPDX Lite.</li> </ol>
<b>Contribution</b>	<p>Upstream First is recommended.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Join the community <ul style="list-style-type: none"> <li>• Follow the treatment of external activities.</li> </ul> </li> <li>2. Release and posting <ul style="list-style-type: none"> <li>• Follow the treatment of external disclosures.</li> </ul> </li> </ol>
<b>Others</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Vulnerability management in cooperation with SIRT.</li> <li>2. The Center supports Open Source Compliance.</li> <li>3. "Collaborative Software Development Platform" supports the implementation of OpenChain compliant processes.</li> <li>4. InnerSource is promoted.</li> </ol>



会社名	(株)日立製作所	Wiki掲載	OK / NG
記載者	知的財産本部 知財企画部 岩切 美和	記載日	2021/7/26
制定時期	<div> <div>2005</div> <div>2014</div> <div>2015</div> <div>2016</div> <div>2020</div> <div>2021</div> </div> <div> ITセクター 日立グループ </div> <div> △ポリシー制定(Ver.1)  △Ver.2    △Ver.2.1    △Ver.2.2  -----&gt; </div> <div> △ポリシー(Ver.1) ガイドライン(Ver.1) </div>		
内容	<p>■ポリシー(OSS活用の基本的な心構え、共有したい価値観を示す)  オープンソースの理念と開発者の尊重、OSSライセンスおよび社内規則の遵守、コミュニティ貢献</p> <p>■ガイドライン(OSS活用の際に参考となる観点、運用方法、注意点を記述。OpenChain仕様書V2.0準拠)</p> <p>I. 共通編 (OSS活用の際の共通的な事項をまとめたもの。輸出管理や特許などの留意点含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会社レベルでのOSS管理体制の整備・維持</li> <li>2. OSSを社外提供する場合の取り扱い</li> <li>3. OSSを社内限定で使用・利用する場合の取り扱い</li> <li>4. OSSコミュニティへの貢献</li> </ol> <p>II. 固有編 (研究開発・組込みなどに特化した留意点をまとめたもの)</p>		
経緯	近年の広範な業界におけるOSS活用の急速な拡大、グループワイドでのOSS活用増加を踏まえ、OSSを適切に取扱うためのグループワイドのポリシーを、ITセクター等の有識者の知見を得て策定		
形態/粒度	ポリシー、ガイドライン。各社、各事業部門がルール化等を検討する際の参考文書		
範囲	上記内容に記載のとおり		
対象組織	グループ全体(日英中他多言語展開)		
制定前の状況	既存規則や運用の中で適宜有識者に相談		

CC-BY-ND-4.0

<b>Company Name</b>	<b>Hitachi, Ltd.</b>	<b>Wiki Listing</b>	<b>OK/NG</b>
<b>Listed by</b>	<b>Intellectual Property Division / Miwa Iwakiri</b>	<b>Date of description</b>	<b>2021/7/26</b>
<b>Establishment time</b>	<div> <div>2005</div> <div>2014</div> <div>2015</div> <div>2016</div> <div>2020</div> <div>2021</div> </div> <div> IT Sector Policy (Ver.1)  Hitachi Gr </div> <div> △ Ver. 2 △Ver.2.1 △Ver.2.2 </div> <div> Policy (Ver.1)  Guidelines(Ver.1) </div>		
<b>Contents</b>	<p> <b>■ Policy</b> (basic attitude of OSS utilization, indicating values we want to share)          Respect OSS philosophy and the developers' intention /Comply with OSS licenses and Company Rule/          Contribution to the OSS Community  <b>■ Guideline</b> (describe the point of view, operation method, and attention points when using OSS (Comply with OpenChain Specification v 2.0))          I. Guideline [General] (Summary of common matters in the use of OSS. Including export control and patents)          1. Developing and maintaining an OSS management system at the company level          2. Handling external provision of OSS          3. Handling when the OSS is for internal use or is execution only          4. Contributing to the OSS community          II. Guidelines [Specific] (Summary of points in the case of R&amp;D, embedded, etc.)       </p>		
<b>History</b>	-Background: Rapid expansion of OSS utilization in a wide range of industries in recent years, and the increase in OSS utilization in the Hitachi Group wide -Activity: Experts ( IT Sector, R&D etc, ) Join to the Project to establish.		
<b>Form/Granularity</b>	Policies, guidelines. Reference document for Hitachi Group company to consider their rules making		
<b>Range</b>	As described in the above description		
<b>Target</b>	Hitachi Group company (Translated into 7 languages)		
<b>Status Before establishment</b>	Consult with experts as appropriate in existing rules and operations		

会社名	某社	Wiki掲載	<b>OK</b> / NG
記載者	匿名希望	記載日	2021/07/19
制定時期	<div> <div>2018</div> <div>2019</div> <div>2020</div> <div>2021</div> </div>		

内容	開発におけるOSS使用・利用の注意点など
経緯	OSS利用プロジェクトの増加 <b>そもそもの知識不足</b>
形態/粒度	<b>有識者に都度相談</b>
範囲	OSS利用, OSSコンプライアンス
対象組織	ボランティア運用
制定前の状況	各担当が都度判断

内容	OSSコミュニティ参加を会社活動へ
経緯	OSS利用プロジェクトの増加 顧客からのOSSに関する問い合わせ増加 OSS関連の見識向上
形態/粒度	<b>仕事としてOSS活動が可能に</b>
範囲	<b>OSSコミュニティ参加(全体会合)</b>
対象組織	所属部門
制定前の状況	担当が有休取って参加

内容	開発におけるOSS使用・利用の注意点など
経緯	<b>OpenChainJapanWG活動を知り、部門内の会議で概要を発表、布教活動開始</b>
形態/粒度	講習ガイドブックの参照と、OSSライセンス事案発生時はSPDXなど確認し有識者交えて判断
範囲	OSS利用, OSSコンプライアンス
対象組織	所属部門
制定前の状況	有識者に都度相談

内容	OSS管理基準を会社適用へ
経緯	OSS利用プロジェクトのさらなる増加 顧客からのOSSに関する問い合わせ急増 OSSの全社運用の開始、法務相談増加
形態/粒度	<b>社内横軸連携の確立開始</b>
範囲	<b>全社の適用ツール選定+判断基準策定着手</b>
対象組織	所属部門・ <b>法務部門・品管部門</b>
制定前の状況	各部門での個別運用+人づての確認